

研究課題名	A病院救命救急センターICUにおける多職種による 臨床倫理カンファレンスのプロトコルの導入とEDMCQスコアの変化
研究機関名	日本赤十字社 武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急センターICU 看護師 氏名 中村真依子
研究期間	臨床研究倫理審査委員会承認日 ～ 2026年3月
研究の意義・目的	救命救急センターのICUに入室する患者の多くは、救命処置後の予後が不明瞭であり、また、ほとんどの患者は意識障害が生じていることがあり、本人の意思を確認することが困難な状況にあります。そのような中で、医師や看護師を含む医療チームは、患者の最善を考えて治療を行う一方で、本人の意に反する延命的治療を実施せざるを得ないケースも多く、倫理的苦悩（moral distress）を経験することがあります。 A病院の救命救急センターICUでは、2023年度より、臨床倫理ケアチームを発足し、患者の治療方針について多職種で共有できるよう、多職種カンファレンスを行ってきました。しかしながら、カンファレンスの開催については明確な基準がなく、対象となる患者を誰が選定するのか、また、コアとなる臨床倫理ケアチームが不在の際にはカンファレンスが行われないなどといった、カンファレンス運営上の課題がいくつもありました。このほかにも、救命科医師やICU看護師の入れ替わりなどにより、臨床倫理ケアチームによる多職種カンファレンスを定着させることが困難な状況にありました。 このほか、これまでICUに入室した患者に対するACPは、患者が重症で本人の明確な意思が確認できないことがほとんどであり困難とされていましたが、2024年度からは新たに緊急ACPに着目し、患者の推定意思や少しでも患者の意識レベルが良いときなどを見計らって本人の意向を聞き出し、多職種で共有できるようACPとして記録する取り組みを行ってきました。 本研究では、そうした倫理的課題に対応するために、これまで定着が困難であった臨床倫理カンファレンスの手順を明確にし、プロトコル化を実現し、そのプロトコルの導入の評価として、導入前後で医療チームの倫理的意思決定風土の変化を、Ethical Decision-Making Climate Questionnaire (EDMCQ) を用いてその効果を評価することを目的としております。
研究の方法 (対象期間含む)	A病院救命救急センターICUに勤務する医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学技士、リハビリスタッフ等の多職種医療従事者を対象に、基本属性（職種、経験年数、集中治療領域での経験年数）と日本語版「集中治療室（ICU）での意思決定に関する倫理的風土の調査票」（Ethical Decision-making Climate Questionnaire: EDMCQ）にプロトコル導入前に回答してもらいます。臨床倫理カンファレンスのプロトコルの導入6ヶ月後に同様の内容を回答してもらいます。介入前後でのスコアの比較（対応のある t 検定またはWilcoxon検定）を統計解析します。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 （匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む） ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①電子カルテ上の情報閲覧システムのアンケート機能を利用しますがデータは統計的に処理されるため個人が特定されることはありません。 ②プロトコル導入前後のアンケートデータを使用します。 ③研究責任者、研究分担者 ④武蔵野赤十字病院 救命救急センター ICU 看護師 中村真依子 武蔵野赤十字病院 院長 黒崎雅之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急センターICU 氏名 中村真依子 TEL：0422-32-3111（代表）6771（事務局内線） FAX：0422-32-3525